

はじめに

甲元 真人、田崎 晴明

昨年(2007年)の12月17,18日に、東京大学物性研究所で「統計物理学ワークショップ」を開催した。統計物理学の分野に限っても、様々なテーマについての特色ある研究会が数多く開かれている今日この頃だが、この研究会は「テーマが全くない」という点で他の多くから際だっていると思われる。

講演者を受付ける際にも「統計物理」という以外には何の制限も付けず、プログラムの編成にあたってはテーマの関連は一切考慮にいれなかった。そこで、ご覧の通り多様で変化に富むプログラムが出来上がった。バクテリアコロニーの写真を眺めていた直後に、ブレード群の数式を見せられるというのも、なかなか非日常的な刺激に富む体験だった。

講演者には独自の価値観で面白い物理を切り拓いている人々が多く、質が高く活きのいい講演を多く聞く事ができた。

数多くの人々が普遍的に「面白さ」を分かち合うことができるのが、物理という学問の魅力だと思う。学問の専門化、細分化、そして孤立化は留まることのないように思われるけれど、時には意識的にその逆の流れを作っていきたいものである。